

## ●日本の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）8 月の主な火山活動は次のとおりである。

### 【噴火した火山】

#### ▲ 桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2<sup>注1</sup>）]

ごく小規模な噴火は時折発生したが、爆発的噴火等<sup>\*</sup>は観測されなかった。

※ 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回数として計数している。

#### ▲ 諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

10～11 日及び 27～29 日に噴火が観測された。

### 【活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山】

#### ● 十勝岳 [やや活発な状況]

62-2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていると推定される。

#### ● 樽前山 [やや活発な状況]

A 火口及び B 噴気孔群は高温状態が続いていると推定される。

#### ● 浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

山頂火口内の高温状態、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量、火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

#### ● 箱根山 [静穏な状況]

14 日に地震が一時的に増加した。

#### ● 伊豆東部火山群 [静穏な状況]

29 日に地震が一時的に増加した。

#### ● 三宅島 [やや活発な状況]

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2004 年秋以降、1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

#### ● 阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2）]

中岳第一火口浅部の熱的な活動は引き続きやや活発で、火口底の一部で赤熱現象が観測された。

#### ● 霧島山（御鉢） [やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いている。

#### ● 薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

31 日に火山性地震がやや多く発生した。

#### ● 口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

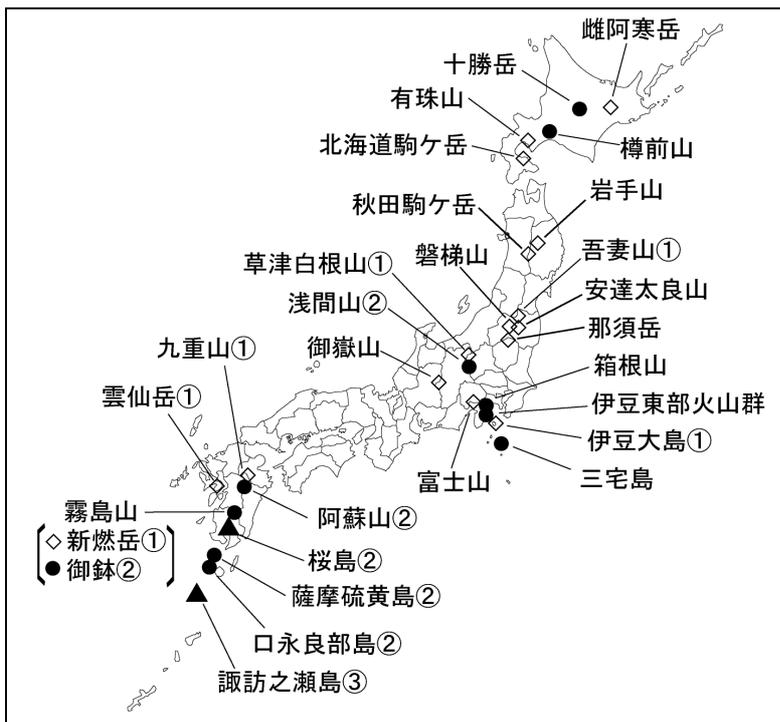


図 1 今回記事を掲載した火山

### 末尾の資料

- 過去 1 年間の火山活動の状況
- 期間中に発表した火山情報の一覧表

注 1 本資料において、レベルは火山活動度レベルを示す。

### 注 2 記号の意味

- ▲：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山
- ◇：その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

## 各火山の活動解説

### ◇ 雌阿寒岳 【比較的静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は比較的静穏に経過した。

### ● 十勝岳 【やや活発な状況】

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で推移した。前期間と比べ噴煙活動に特に変化はみられていないことから、同火口の熱的な活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

火山性地震の発生状況に特段の変化はなく、火山性微動は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では火山活動に関連すると思われる変化はみられなかった。

### ● 樽前山 【やや活発な状況】

前期間と比べ、A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に特に変化はみられていないことから、これらの火口の熱的な活動にも大きな変化はなく、引き続き高温の状態が続いていると推定される。

火山性地震の発生状況に特段の変化はなく、火山性微動は観測されなかった。また、GPS による地殻変動観測では火山活動に起因すると考えられる変化はみられなかった。

### ◇ 有珠山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

### ◇ 北海道駒ヶ岳 【静穏な状況】

GPS による地殻変動観測では、わずかな山体膨張が引き続き観測されているが、地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

### ◇ 岩手山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

### ◇ 秋田駒ヶ岳 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

### ◇ 吾妻山 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

### ◇ 安達太良山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

### ◇ 磐梯山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

### ◇ 那須岳 【静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

### ◇ 草津白根山 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

### ● 浅間山 【やや活発な状況（レベル 2）】

山頂火口内の高温状態、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量、火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

山頂火口の噴煙活動は引き続き活発で、期間中の噴煙高度は概ね 200～300m で推移した。また、夜間に山麓の高感度カメラ<sup>1)</sup>で微弱な火映がたびたび観測されており、火口内は引き続き高温状態が続いていると推定される（図 2）。

22 日及び 30 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 300～900 トン（22 日）及び 1,600～2,100 トン（30 日）と引き

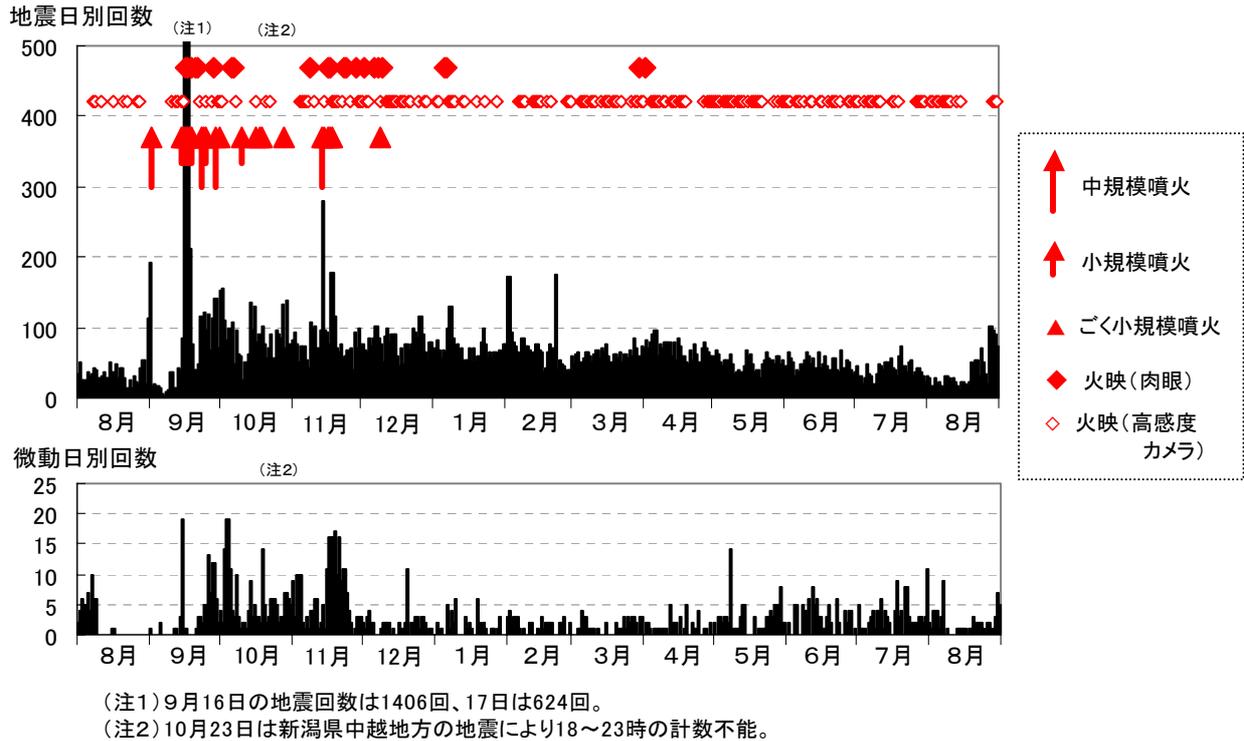


図2 浅間山 2004年8月～2005年8月の噴火、火映、火山性地震及び微動の日別発生状況

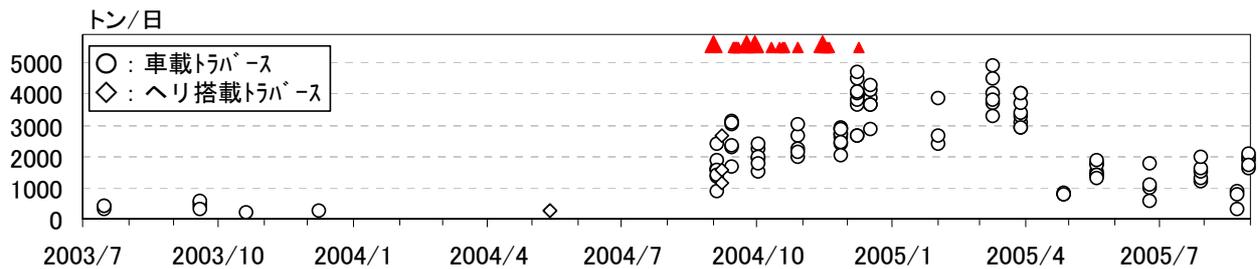


図3 浅間山 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2003年7月～2005年8月）  
大きい▲は中爆発、小さい▲は小噴火以下を示す。

続きやや多い状態が続いている（図3）。

4～5日に、2004年の噴火後初めて山頂部付近での調査観測を行った。山頂火口内では、2004年9月中旬に国土地理院や気象庁の観測で確認されたドーム状に隆起した溶岩地形は失われ、緩やかなすり鉢状の地形となっており、火口底は2004年噴火前と比べて数十m浅くなっていた。火口内には、直径数m～10m程度の噴火で吹き飛ばされた岩塊や火口壁が崩落したとみられる岩塊等が多数見られた。また、火口周辺でも直径数m～10m程度の岩塊が多数確認された。火口底の中央及び北東側の噴気孔の内部では赤熱現象<sup>2)</sup>が見られ、中央の噴気孔付近では、赤外熱映像装置<sup>3)</sup>による観測で約570℃という高い温度が観測

された。

火山性地震の回数は、上旬～中旬には1日あたり20～30回程度とやや減少傾向がみられたが、下旬には再び増加し、28日16時台～21時台には一時的に多発して28日の地震回数は103回となった。傾斜計等その他の観測データに異常な変化は観測されなかった。地震回数はその後もやや多い状態が続き、1日あたり74～95回で推移した。震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約1～3kmに集中しており、前期間までと比べ特段の変化はなかった。火山性微動の回数もやや多い状態が続いており、1日あたり0～9回で推移した（図2）。

傾斜計及びGPSによる地殻変動観測、光波測

距観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。なお、国土地理院のGPSによる広域の地殻変動観測によれば、浅間山周辺の基線では、2004年10月後半以降、ゆるやかな山体の膨張を示す伸びが観測されていたが、最近はその伸びの傾向が若干鈍化したようにみられる。

- 1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が設置。
- 2) 赤熱現象は、地下から高温の火山ガスなどが噴出する際に、周辺の地表面が熱せられて赤く見える現象。
- 3) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

#### ◇ 御嶽山 [静穏な状況]

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

#### ◇ 富士山 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

#### ● 箱根山 [静穏な状況]

##### 14日に地震が一時的に増加した。

14日17時から21時にかけて、駒ヶ岳付近の浅い所を震源とする地震がややまとまって発生した。14日の地震回数<sup>4)</sup>は12回で、最大地震は19時59分に発生したM(マグニチュード)2.2(暫定値)であった。神奈川県温泉地学研究所によると、震源に近い箱根町強羅及び二ノ平では揺れや地鳴りもあった模様である。その後、地震活動は落ち着いた状態に戻っている。気象庁が湯河原に設置している体積歪計<sup>ひずみ</sup>や神奈川県温泉地学研究所の地殻変動観測では異常な変化は観測されなかった。また、15日に同研究所が行った調査によると、大涌谷の噴気活動に特に変化はみられなかった。

箱根山では2004年2月4日にも大涌谷周辺を

震源とする地震が多発した。この際の地震回数<sup>4)</sup>は50回に達し、最大地震(M3.0)により箱根町湯本で震度2を観測したが、大涌谷の噴気活動に変化はみられなかった。

4) 地震回数はM0.8以上の地震を計数。

#### ● 伊豆東部火山群 [静穏な状況]

##### 29日に地震が一時的に増加した。

29日04時から06時にかけて、伊東市の中心部の南西側約1kmを震源とする浅い地震が一時的に増加した。最大地震は04時18分に発生したM(マグニチュード)2.9(暫定値)で、伊東市大原などで震度1を観測した。地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

その他の日は、地震活動は低調で、地殻変動等の観測データにも特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

#### ◇ 伊豆大島 [静穏な状況(レベル1)]

地殻変動観測では、長期的な山体の膨張傾向は継続しているが、地震活動には特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

#### ● 三宅島 [やや活発な状況]

多量の火山ガス(二酸化硫黄)の放出が続いている。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出した。期間中の噴煙の最高は火口縁上1,000mであった(前期間の最高は火口縁上300m)。

上空から行った観測<sup>5)</sup>では、山頂火口内外の地形には大きな変化はみられなかった。山頂火口内の最高温度は赤外熱映像装置<sup>3)</sup>による観測で約180~260℃(前回は5月24日の約210℃)と特に変化はなかった。全磁力の連続観測では特に変化はみられず、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

火山ガス観測<sup>5)</sup>では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり3,200~8,800トンと依然として多い状態であった(図4)。三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測

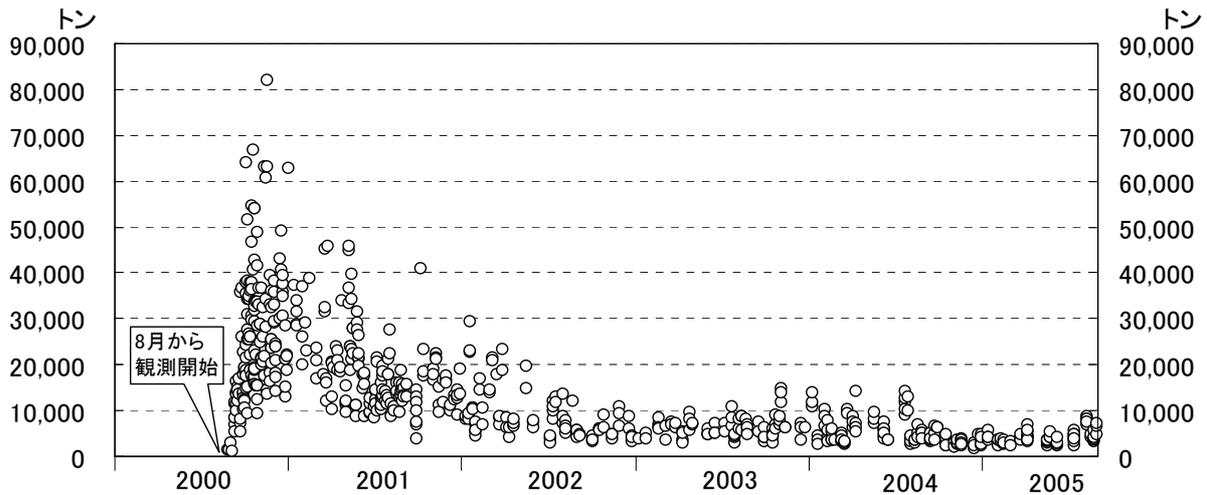


図4 三宅島 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2000年8月～2005年8月）  
2004年秋以降は1日あたり2千～5千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

されている。

9日02時頃から06時頃にかけて火山性地震が一時的に増加し、9日の地震回数は184回となった。これらの地震増加中に空振を伴う低周波地震が4回発生した。地震発生時の噴煙は雲のため確認できなかったが、その後三宅島測候所が行った現地調査では山麓部で降灰は確認されなかった。その他の観測データには特に異常はみられなかった。それ以外の日は地震回数の少ない状態が続き、1日あたり0～17回で推移した。

火山性微動は、28日以降、振幅の小さな連続微動が10分から40分程度の周期的な間隔で時々観測されたが、噴煙の状況等その他の観測データに特段の変化はみられなかった。このような現象が発生したのは2004年6月18日以来のことである。

GPSによる地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

5) 9、16、23及び30日に、警視庁、航空自衛隊、東京消防庁及び海上保安庁の協力により実施。

#### ◇ 九重山 [静穏な状況（レベル1）]

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

#### ● 阿蘇山 [やや活発な状況（レベル2）]

**中岳第一火口浅部の熱活動は引き続きやや活発な状態が続いており、火口底の一部では赤熱現象が観測された。**

中岳第一火口では、11日以降、赤熱現象<sup>2)</sup>が火口底の一部で、監視カメラ（阿蘇火山博物館が中岳第一火口縁に設置）により、夜間にたびたび観測されている。

現地観測<sup>6)</sup>によると、火口内の湯だまり<sup>7)</sup>の表面温度は69～74℃と依然として高温で（赤外放射温度計<sup>3)</sup>による、前期間は66～74℃）、湯だまり内では引き続き高さ1～5mの小規模な土砂噴出が多数観測された。湯だまり量は減少傾向が続き、11日以降は約2割となっている。

火山性連続微動は振幅の小さい状態で経過した。

孤立型微動及び火山性地震の月発生回数は、それぞれ2,502回（前期間3,165回）、419回（前期間477回）と減少したが、発生状況には大きな変化はみられていない。

噴煙の状況には特段の変化はなく、GPSによる地殻変動の連続観測でも火山活動に起因する変化はみられなかった。なお、国土地理院のGPSによる広域の地殻変動観測によれば、阿蘇山を取り囲む基線では、2004年後半頃から山体の膨張を示すわずかな伸びが観測されている。

6) 現地観測を5、11、18、22及び29日に実施。

7) 湯だまり：活動静穏期の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60℃の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

#### ◇ 雲仙岳 [静穏な状況（レベル 1）]

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

#### ◇ 霧島山（新燃岳） [静穏な状況（レベル 1）]

地震活動は低調で、GPS による地殻変動観測でも火山活動に起因する変化はみられず、火山活動は静穏に経過した。

#### ● 霧島山（御鉢） [やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火口内で 2003 年 12 月に確認された噴気孔からの噴気活動は、消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、火口縁上 100m まで上がる噴気が観測された。

地震活動は低調で、火山性微動は観測されなかった。GPS による地殻変動観測では火山活動に起因する変化はみられなかった。

#### ▲ 桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

今期間は、ごく小規模な噴火は時折発生したが、爆発的噴火等<sup>8)</sup>は観測されなかった（前期間は爆発的噴火を 8 回観測）。噴火に伴う噴煙の最高は 3 日に観測された火口縁上 500m であった。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）では降灰は観測されなかった（前期間もなし）。

地震活動には変化はなく、火山性地震は長期的に少ない状態が続いている。火山性微動は、前期間はやや増加がみられたが、今期間は少ない状態で経過した。

GPS による地殻変動観測では、連続観測で長期的な東西方向のわずかな伸びの傾向が続いている。また、8～10 日に行った繰り返し観測では、2004 年 9 月の観測との比較で、桜島のわずかな膨張がみられた。

8) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回数として計数している。

#### ● 薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

31 日に火山性地震がやや多く発生し、31 日の日回数は 86 回であった。その他の日は 1 日あたり 15 回以下と少ない状態で推移した<sup>9)</sup>。地震がやや多く発生したのは、2004 年 5 月 20 日（35 回）以来であった。火山性微動の発生状況には特に変化はなかった<sup>9)</sup>。監視カメラ（硫黄岳の西南西約 3 km に設置）による観測では、31 日は天候不良のため噴煙の状況は不明であったが、その他の日の噴煙活動に特に変化はなかった。鹿児島中央警察署硫黄島駐在所によると、期間中、集落（硫黄岳の西南西約 3 km）で降灰はなかった。

9) 8 月 2～23 日は観測機器の故障のため、火山性地震及び微動の状況は不明。

#### ● 口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）] 火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。

火山性地震はやや多い状態で経過し、月回数は 232 回（前期間 136 回<sup>10)</sup>）であった。震源は新岳火口付近のごく浅い所と推定される。火山性微動もやや多い状態で経過し、月回数は 40 回（前期間 58 回<sup>10)</sup>）で、継続時間がやや長いものも発生している。（図 5）

監視カメラ（新岳の北西約 4 km に設置）による観測では、噴気等は観測されなかった。

10) 7 月中旬以降の地震計データに異常が認められ、火山性地震及び微動の再計数を行ったため、7 月の回数は前号と異なっている。

#### ▲ 諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

##### 10～11 日及び 27～29 日に噴火が観測された。

10 日未明から活動が活発になり、10 日朝から 11 日にかけて噴火が断続的に観測された。爆発的噴火は観測されなかった。噴煙の最高は 10 日 09 時に監視カメラ（御岳の北北東約 25km の中之島に設置）で観測された火口縁上 1,500m（灰白色）であった。活動の活発化に伴い、火山性微動

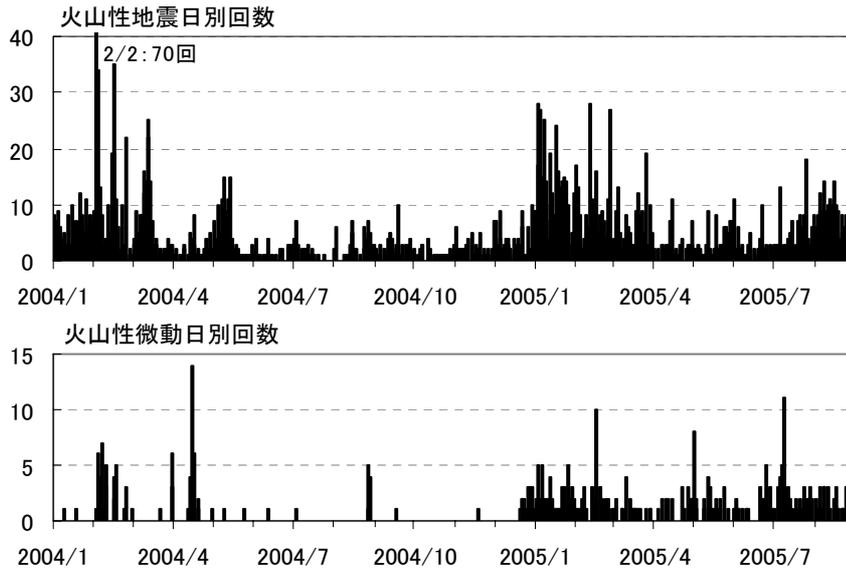


図5 口永良部島 火山性地震及び微動の日別発生状況  
(2004年1月～2005年8月)

(注) 7月中旬以降の地震計データに異常が認められ、火山性地震及び微動の再計数を行ったため、7月の回数は前号と異なっている。

も10日未明から12日にかけて振幅のやや大きなものが断続的に観測された。また12日には火山性地震もやや多く発生した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、27～29日かけて火山灰を含む噴煙が火口縁上 500～700 mまで上がっているのが確認された。火山性地震及び火山性微動の活動には特段の変化はなかった。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、期間中、集落（御岳の南南西約4 km）で降灰はなかった。

資料 1 過去 1 年間の火山活動の状況

| 火 山 名    |           | H16年 (2004年) |     |     |     | 平成17年 (2005年) |    |    |    |    |    |    |    |
|----------|-----------|--------------|-----|-----|-----|---------------|----|----|----|----|----|----|----|
|          |           | 9月           | 10月 | 11月 | 12月 | 1月            | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 |
| 雌阿寒岳     | 活動        | ●            | ●   | ●   | ●   | ●             | ●  | ●  | ●  | ●  |    |    |    |
| 十勝岳      | 活動        | ●            | ●   | ●   | ●   | ●             | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  |
| 樽前山      | 活動        | ●            | ●   | ●   | ●   | ●             | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  |
| 吾妻山      | 活動<br>レベル |              |     |     |     |               | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  |
| 草津白根山    | 活動<br>レベル |              |     |     | ●   |               | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  |
| 浅間山      | 活動<br>レベル | ▲            | ▲   | ▲   | ▲   | ●             | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  |
| 箱根山      | 活動        |              |     |     |     |               |    |    |    |    |    |    | ●  |
| 伊豆東部火山群  | 活動        |              |     |     |     |               |    |    |    |    |    |    | ●  |
| 伊豆大島     | 活動<br>レベル | ①            | ①   | ①   | ①   | ①             | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  |
| 三宅島      | 活動        | ●            | ●   | ▲   | ▲   | ●             | ●  | ●  | ▲  | ▲  | ●  | ●  | ●  |
| 伊豆鳥島     | 活動        |              | ●   |     |     |               |    | ●  |    |    |    |    |    |
| 西之島      | 活動        |              | ●   |     |     |               |    |    |    |    |    |    |    |
| 福德岡ノ場    | 活動        | ●            | ●   | ●   |     | ●             | ●  | ●  |    | ●  |    | ▲  |    |
| 九重山      | 活動<br>レベル |              |     |     |     |               | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  |
| 阿蘇山      | 活動<br>レベル | ●            | ●   | ●   | ●   | ●             | ●  | ●  | ▲  | ●  | ●  | ●  | ●  |
| 雲仙岳      | 活動<br>レベル | ①            | ①   | ①   | ①   | ①             | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  |
| 霧島山（新燃岳） | 活動<br>レベル |              |     |     |     |               | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  | ①  |
| 霧島山（御鉢）  | 活動<br>レベル | ●            | ●   | ●   | ●   | ●             | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  |
| 桜島       | 活動<br>レベル | ●            | ●   | ▲   | ▲   | ▲             | ●  | ▲  | ▲  | ▲  | ▲  | ▲  | ▲  |
| 薩摩硫黄島    | 活動<br>レベル | ▲            | ▲   |     |     |               | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  |
| 口永良部島    | 活動<br>レベル |              |     |     |     | ●             | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  | ●  |
| 諏訪之瀬島    | 活動<br>レベル | ▲            | ▲   | ▲   | ▲   | ▲             | ▲  | ▲  | ▲  | ▲  | ▲  | ▲  | ▲  |
| 硫黄鳥島     | 活動        |              |     |     |     |               |    |    | ●  |    |    |    |    |

活動状況（活動）

▲：噴火した火山

●：活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化のあった火山

火山活動度レベル

③：小規模な噴火が発生かその可能性

②：やや活発な火山活動

（桜島については、「比較的静穏な噴火活動」）

①：静穏な火山活動

## 資料 2 2005 年 8 月の火山情報発表状況

| 火山名   | 情報の種類及び号数                     | 発表日時           | 概要  |
|-------|-------------------------------|----------------|---|
| 浅間山   | 火山観測情報第 182 号                 | 5 日 16:00      | 7 月 29 日～8 月 5 日 15 時の活動状況（噴煙量、火山性地震及び微動やや多い、微弱な火映を時々観測、4 日実施の調査観測結果）。レベルは 2。 |
|       | 火山観測情報第 183 号                 | 12 日 16:00     | 8 月 5～12 日 15 時の活動状況（噴煙量、火山性地震及び微動やや多い、微弱な火映を時々観測、4 日及び 5 日実施の調査観測結果）。レベルは 2。 |
|       | 火山観測情報第 184 号                 | 19 日 16:00     | 8 月 12～19 日 15 時の活動状況（噴煙量、火山性地震及び微動やや多い、微弱な火映を時々観測）。レベルは 2。                   |
|       | 火山観測情報第 185 号                 | 26 日 16:00     | 8 月 19～26 日 15 時の活動状況。22 日実施の火山ガス観測結果。レベルは 2。                                 |
| 三宅島   | 火山観測情報第 423 号<br>↓（1 日 2 回発表） | 1 日 09:30<br>↓ | 前日 16 時～当日 09 時もしくは当日 09～16 時の活動状況、及び上空の風の予想。                                 |
|       | 火山観測情報第 484 号                 | 31 日 16:30     |   |
| 阿蘇山   | 火山観測情報第 38 号                  | 5 日 11:00      | やや活発な火山活動が継続（湯だまりの表面温度高く、量は約 3 割、小規模な土砂噴出継続）。レベルは 2。                          |
|       | 火山観測情報第 39 号                  | 12 日 11:00     | やや活発な火山活動が継続（赤熱現象を観測、湯だまり量が約 3 割から約 2 割に減少）。レベルは 2。                           |
|       | 火山観測情報第 40 号                  | 19 日 11:00     | やや活発な火山活動が継続（赤熱現象を観測、中岳第一火口の熱的な活動引き続きやや活発、湯だまり量は約 2 割）。レベルは 2。                |
|       | 火山観測情報第 41 号                  | 26 日 11:10     |   |
| 口永良部島 | 火山観測情報第 23 号                  | 1 日 14:15      | 火山性地震のやや多い状態継続。レベルは 2。  |
|       | 火山観測情報第 24 号                  | 8 日 14:05      |   |
|       | 火山観測情報第 25 号                  | 15 日 14:00     |   |
|       | 火山観測情報第 26 号                  | 22 日 14:00     |   |
|       | 火山観測情報第 27 号                  | 29 日 14:00     | 火山性地震の発生が少なくなっている。レベルは 2。   |

## ● 世界の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）8 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。  
このうち、活動が活発であった主な火山は以下のとおりである。

### アナタハン火山（マリアナ諸島）（図中A）

噴火活動は今期間を通して活発で、頻繁に火山灰を噴出した（噴火活動は今年 4 月以降活発な状態が続いている）。噴煙は最高で海拔約 8 km まで上がった。現地の气象台から周辺の島々に火山灰に関する情報が発せられ、それらの島々の多くの住民から強い硫黄臭が報告されたこともあった（アナタハン島は無人島）。また、噴煙により航空機の運航に影響がみられた。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

